

1 肉用牛農場の流死産に関する調査

2
3 丹後家畜保健衛生所

4 ○堀口美咲、極山太

5 【はじめに】肉用繁殖牛の流死産は子牛販売収入が損失し、分娩間隔が延長するために農
6 家に大きな経済的損失を与える。発生要因として産歴、感染症、先天性疾患、胎子失位、
7 物理的要因、飼養管理等、様々な要因が考えられる。管内の肉用繁殖農家における発生要
8 因についても不明な点が多く、今回、過去に発生した流死産の症例について発生要因を調
9 査したので報告する。【材料及び方法】管内肉用牛繁殖農家6戸の過去5年間（2017年4
10 月～2022年3月）の流死産37症例を対象とした。繁殖台帳及び診療カルテから各症例に
11 ついて産次数、発生時期、在胎期間等について調査し、また、各農家での流死産発生状況
12 を比較した。【結果及び考察】管内6戸における5年間での分娩数は662例、流死産数は
13 37例、発生割合は5.6%であった。流死産のうち産歴では2産目（8例、21.6%）、月別
14 では3月（7例、18.9%）及び8月（6例、16.2%）、死産のうち在胎期間が285日以上
15 （24.0%）で発生が多い傾向があった。また、農場別の流死産発生割合を比較するとA農
16 場14.7%（19/129）、B農場2.5%（7/277）、C農場3.3%（2/91）、D農場10.0%
17 （5/50）、E農場4.3%（2/47）及びF農場2.9%（2/68）と農場間で差が認められ、飼養
18 管理状況の影響が考えられた。今後、更に発生要因の調査を進め、適切な飼養管理指導を
19 行いながら管内の流死産発生数の低減を目指していきたい。